

沖縄薬草由来の機能性食品成分 とその生理機能

沖縄は世界で最も平均寿命が高く、人口10万人あたりで最多の百寿者が知られており、世界の5大健康長寿地域であるブルーゾーンの一つにも取り上げられている。2017年統計で日本の10万人あたり百寿者が48人に対して沖縄は81人であり、他の国（米国、イタリアおよびフランス）に比べて2.5から4倍も多い。沖縄の百歳以上の人の暮らしにおける食事や栄養関連の特徴としては①海藻類を含め植物ベースの食事である、②大豆をたくさん食べる、③薬草を食べる、の3つが挙げられている。特に薬草を日常的に食品として食べる習慣は、他のブルーゾーンにはない沖縄の特徴である。

ブルーゾーンの一か所として選定された沖縄の伝統食に関する研究が進められている中で、沖縄の自生薬草の機能性成分の同定とその生理活性の解明の研究が進んでおり、クワンソウやシークワサー、ビデンス・ピローサ由来サプリメントが機能性表示食品として届け出がなされ、受理されていることも注目されている。

そこで、今回は、“沖縄薬草由来の機能性食品成分とその生理機能”の特集として次の総説3報と原著論文1報を掲載する。「沖縄健康長寿と薬草」、「オオバギ実由来プレニルフラボノイドの骨格筋 AMPK 活性化による糖代謝促進効果」、「沖縄県産素材の機能性表示食品としてのポテンシャル」と、「サルカケミカンから単離したトダクリンのメラニン産生抑制効果」。

いずれもその有効成分やヒト試験におけるエビデンスが解明されつつあり、本特集で取り上げた薬草がエビデンスある機能性食品として健康長寿に貢献することを期待する。

禹 濟泰
(中部大学応用生物学部)